［ 横浜能楽堂 ］
令和5年度業務計画及び収支予算
［ 公益財団法人横浜市芸術文化振興財団 ］

※ 文中の事業欄において、
●:主催事業 ○:共催事業
を示します。
※ 文中の達成指標欄において、
□:定量的指標 ■:定性的指標
を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜能楽堂
所在地	横浜市西区紅葉ケ丘 27―2
構造・規模	鉄筋コンクリート造 地上2階地下2階建
敷地・延床面積	延床面積 5,695.93 ㎡
開館日	1996 年(平成8年)6月 28 日

2 指定管理者

法人名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地
代表者	理事長 近藤誠一
設立年月日	平成3年7月 10 日
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月 31 日まで
現指定管理者の管理運営開始日	平成8年6月 28 日

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1)基本的な方針

横浜能楽堂は、能楽を中心とした古典芸能の専門施設として古典芸能の普及と振興を通じて地域に貢献し、市民に信頼と期待を寄せられる横浜にとって欠くことができない拠点施設となることを目指します。これまでの運営経験とノウハウを活かし、次の5つの方針で施設の管理運営と事業実施に取り組みます。

1. 横浜能楽堂ならではの事業企画による能楽の普及と新たな観客の創造

能楽ファン向けの本格的な公演や初心者でも楽しめる工夫を凝らした普及公演、またワークショップや能楽講座など多彩なラインナップで幅広い観客の期待に応える事業を実施します。

2. 次世代育成事業の実施と次代を担う人材への働きかけ

学校や地域と連携し、子どもの創造性や感受性を育む事業を実施します。事業の企画力を担保するために職員の専門能力を高めます。

3. 利用者ニーズに沿った貸館対応と広報による施設の利活用の促進

稽古や発表会でも使いやすい施設となるように利用者の利便性を高め、また効果的な PR により利用者を増やします。

4. 能楽堂の価値の発信を続け、エリアの魅力づくりにも貢献

文化財としての能舞台の保存と活用のバランスを取りながら、見学会等を通じて能楽堂という建物自体の価値を高め、能楽堂ファンを増やします。周辺文化施設と連携し、紅葉坂エリアの魅力づくりにも寄与します。

5. 施設の安全安心を確保し、安定的な経営を実現

施設の適切な管理、効率的な業務の実施、財源の確保、職員の効果的な配置により、施設経営の基盤を整えます。

(2)令和 5 年度の業務の方針

ア 全体について

大規模改修を控えた本年は、開館以来の横浜能楽堂の存在感を市内外や地域にアピールするとともに、休館期間及びリニューアルオープン後の展開を見据えた取り組みを行います。

自主事業では、横浜能楽堂ならではの企画力を生かした公演を行うとともに、鑑賞サポートや参加しやすさ、低料金などにより敷居の低い能楽堂を継続していきます。

来館促進事業については、施設見学会や、入門的な事業と施設見学を組み合わせた事業などにより、休館前に多くの方に足を運んでいただけるようにします。

施設管理については、開館 27 年目を迎え施設や整備の老朽化や不具合が進行していますが、日常点検を強化し、施設運営に影響が出ないように努めます。

イ 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

横浜能楽堂ならではの企画性を活かした事業により、古典芸能の魅力を伝えます。鑑賞、体験、学びを通して新たな観客や能楽ファンを創造します。

ウ 使命2 能楽等に携わる人材を育む

子どもたちの創造性や感受性を育む事業に取り組みます。また時代を担う若手の演じ手をワークショップ、大学連携事業に起用し支援します。能楽堂の事業を推進するための専門職員の育成を図ります。

エ 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

能楽をはじめとする古典芸能の利用しやすい環境を整備し、市民の活動拠点となります。クリエイティブ・インクルージョンの視点から多くの市民の参加機会を作ります。

オ　使命4　能楽等や施設の魅力の発信を行う

建物自体が大きな魅力にあふれています。能楽と能舞台、その価値の発信を続け、市民にとって誇れる地域資源となることを目指します。

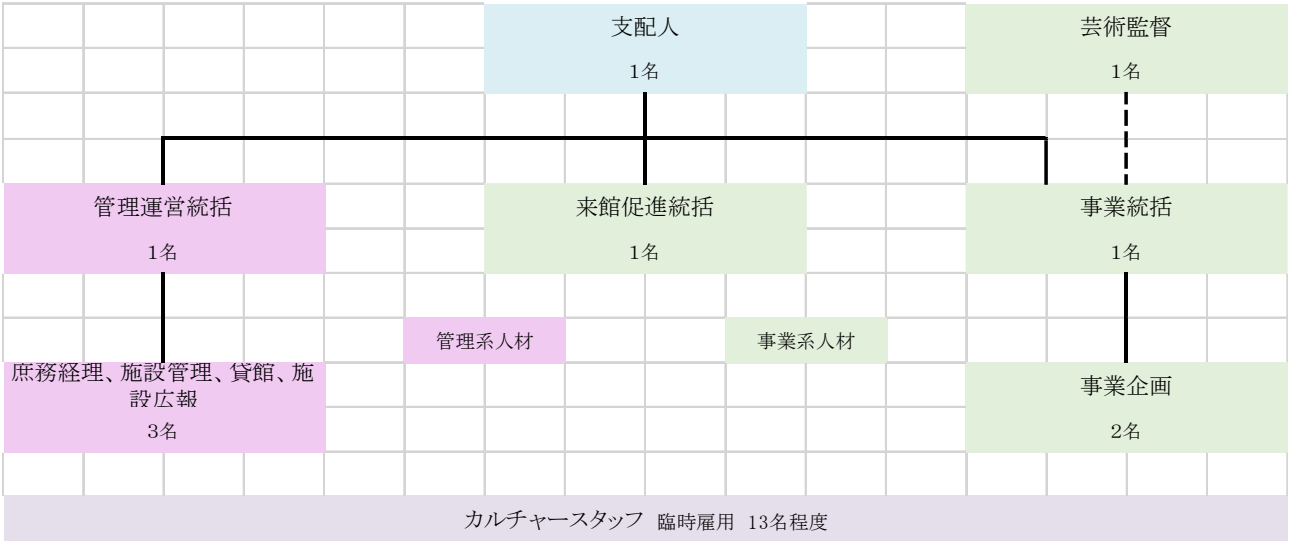
カ　使命5　持続可能性を高める施設運営を行う

施設の保守・点検、防災・防犯・感染症対策等を通じて安心安全な施設として運営します。効果的な経費執行や収入増にも引き続き取り組みます。

キ　使命6　新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

コロナ禍の経験を活かし、新しい生活様式に対応した手法のもと、感染症対策と社会経済活動の両立を図り、横浜能楽堂としての活動を継続します。

4　運営組織の構造、人員配置



横浜能楽堂全体の統括責任者として“支配人”を配置し、施設経営全体を統括します。“芸術監督”を配置し、能楽・古典芸能の専門施設としての芸術面での監修責任者とします。

支配人の下に、庶務経理・施設管理・貸館・施設広報を実務統括し、支配人を補佐する“管理運営統括”を配置、“事業統括”と“来館促進統括”を置いて事業を担当します。日常の運営は支配人が統括しますが、勤務シフト上不在の場合には管理運営統括（または来館促進統括）が代行し、有事の際には支配人及び財団事務局等と連携し、迅速に対応します。

5　令和 5 年度の業務の取組

(1) 文化事業

主催事業では、横浜能楽堂ならではの企画力を生かし、能楽愛好者に横浜能楽堂の存在感をアピールする公演を実施します。能楽だけでなく、当館が実施してきた日本の伝統芸能の今を体感できる、「開館 28 年謝恩　横浜能楽堂『中締め』特別公演」を全5回で開催するほか、能楽研究者などが独自の視点で一番見たい演者と曲を選び、選んだ理由を語ったのち能を上演する「この人　この一曲」を実施します。この公演で使用する装束に関して特別展示を行い、期間中は本舞台有料公演の日以外、9～18 時まで館内見学を受け入れます。

字幕解説の配信、公演に先立った解説動画の公開など、能楽ファンだけでなく初心者でも来場しやすいよう鑑賞サポートを引き続き行い、新たな鑑賞者も取り込みます。

普及公演は、横浜狂言堂を引き続き実施するほか、70 回を迎える横浜能ではシテ方五流が出演し仕舞や舞囃子など能楽の様々な楽しみ方をお見せします。次世代育成として子どもたちの創造性を育む公演やワークショップ、学校や教員と連携した事業を実施します。具体的な取組内容や指標は、業務計画表に記載します。

(2)能楽や古典芸能の公演、稽古等への施設の提供(施設運営)

令和5年度は、既存の施設利用者へ休館中に利用できる他の施設の情報提供等に取り組みます。具体的な取組内容や指標は、業務計画表に記載します。

(3)来館促進プロモーション事業

横浜能楽堂は、歴史ある能舞台を中心とした施設そのものにも魅力がありますが、休館中は見学ができないこともあり、令和 5 年度は施設見学会に力を入れます。能楽堂という空間だけでなく、能楽にも興味を持ってもらうきっかけとなるよう、説明内容に工夫を加えた見学会や、バリアフリーに対応した見学会にも取り組みます。合わせて、プライベート見学会を積極的に誘致するためリーフレットを作成し近隣企業に配布するほか、外国人を対象としたガイド向け説明会を実施し、能楽の普及に務めるとともに、休館後の需要につなげます。

また、能楽堂の雰囲気を活かしたワークショップやオープンデー、能楽堂の魅力を伝える事業に引き続き取組みます。具体的な取組内容や指標は、業務計画表に記載します。

(4)施設管理

令和 6 年1月からの大規模改修工事に向け、必要な修繕や定例の設備保守について設置者と協議連絡のうえ適切に執り行います。休館まで事故のないよう、安心・安全な施設の維持に重点的に取組みます。具体的な取組内容や指標は、業務計画表に記載します。

(5)収支

令和 5 年度は、助成金など指定管理料以外の収入の確保と、有料見学会の誘致による自主財源の増に取り組みます。具体的な取組内容や指標は、業務計画表に記載します。

(6)各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和 5 年度は、業務計画書や業務計画表など各種帳票の作成を適切に実施します。

(7)その他

令和 5 年度は、プロデューサー(古典芸能)など職員の専門人材としての育成に継続して取り組みます。また大学等との連携も実施します。具体的な取組内容や指標は、業務計画表に記載します。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 能、狂言その他の古典芸能の振興・発展に寄与する

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	事業のメニューの実施数			8 メニュー				11 メニュー	
2	自主事業の入場者数			7,600 名				9,500 名	
3	入場者の満足度(アンケート調査)			4.5 以上				4.5 以上	
4	総来場者数			13,600 名				18,000 名	
5	各事業のターゲット設定及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割(アンケート集計)	①鑑賞経験あり		特別公演&企画公演 70%以上				特別公演&企画公演 70%以上	
		②鑑賞経験2回以内、初来館		普及公演 20%以上				普及公演 30%以上	
		③実技初心者		能楽ワークショップ、講座 50%以上				能楽ワークショップ、講座 50%以上	
6 ★	「バリアフリー能」への鑑賞サポートツール導入数			35 件以上(2 年間累計)				100 件以上(5 年間累計	
7 ★	公演事業の設定座席数に対する入場率			80%以上				85%以上	
8 ★	解説動画視聴数			2,000 回以上(2 年間累計)				5,000 回以上(5 年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	入場者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	
		R5達成指標	来場者ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ、ｱﾝｹｰﾄ自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	来場者ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ、ｱﾝｹｰﾄ自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	
2 ★	「バリアフリー能」に関する福祉団体等インタビュー調査	R4実績	
		R5達成指標	サポート導入に反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	サポート導入に反映、被評価
		R8実績	

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

横浜能楽堂の企画力を活かしたここでしか見られない公演を開催し、お客様に数ある公演から選んでもらうことで集客を確保し入場者の満足度向上につなげます。また、動画配信や上演時字幕配信などの鑑賞サポートを充実させることで、初めて来場する観客の割合を高めます。ワークショップや講座、展示などを実施し、能楽へのアプローチを拡げます。バリアフリー能については、令和 5 年度は開催しませんが、公演時の車椅子席を全公演で用意し、バリアフリーに対応した施設見学会を実施します。

(2) 使命2 能楽等に携わる人材を育む

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	次世代育成を目的とした事業の実施回数		計 9 回				計 10 回	
2	参加者の満足度(アンケート調査)		4.5 以上				4.5 以上	
3 ★	「こども狂言堂」設定座席に対する入場率		90%以上				90%以上	
4 ★	「先生のための狂言講座」の参加者数		100 名以上				120 名以上	
5 ★	学校見学会、教育旅行の問い合わせ数		3 件				5 件	
6 ★	狂言「柿山伏」を使った取組		3 件 (2 年間累計)				5 件 (5 年間累計)	
7 ★	プロデューサーによる「WEB 版研紀要」掲載		4 本以上 (2 年間累計)				10 本以上 (5 年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(アンケート及びインタビュー調査)	R4実績	
		R5達成指標	ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ/ｱﾝｹｰﾄ自由記入欄意見の運営への反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ/ｱﾝｹｰﾄ自由記入欄意見の運営への反映
		R8実績	

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

今年度も子どもの創造性を育む次世代育成事業を実施します。子ども向け公演、ワークショップ、学校アウトリーチ、教員向け講座、相談対応に加え、狂言「柿山伏」のオンライン活用、学校見学会の受け入れなど、学校などとの連携強化に重点的に取り組みます。また分かりやすい公演プログラムの作成、ホームページでの能楽に関する研究紀要の公開や解説動画制作(使命1にも該当)を通じて、職員の専門能力の向上も図ります。

(3) 使命3 能楽等をはじめとする市民の活動の場となる

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	貸館利用者数		34,000 名				38,000 名	
2	利用者の満足度(アンケート調査)		施設の快適性への満足度 4.0 以上				施設の快適性への満足度 4.0 以上	
3	貸館利用の相談/広報支援件数		相談 10 件以上				相談 20 件以上	
			広報支援 20 団体、30 件以上				広報支援 20 団体、30 件以上	
4 ★	本舞台、第二舞台の利用率(日換算)		本舞台 39%以上				本舞台 40%以上	
			第二舞台 52%以上				第二舞台 55%以上	
5 ★	利用料金収入額		11,100 千円以上				16,000 千円以上	
6 ★	新規利用向け割引制度利用実績		20 件以上(2 年間累計)				60 件以上(5 年間累計)	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者の状況についての現状把握(利用者との意見交換等)	R4実績	
		R5達成指標	利用者ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ:年 10 団体以上(新規団体を含む)
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	利用者ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ:年 15 団体以上(新規団体を含む)
		R8実績	

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

横浜市内では貴重な和の空間であり、能楽以外でも、また個人でも利用できる施設であることをホームページを通じて紹介したり、初めての利用を促進する割引制度や若者向けのお試し利用会を効果的に運用することで新規利用につなげます。休館に向けて、利用者がスムーズに他の施設を利用できるようニーズの掌握、市内のお稽古場等について情報収集し、情報発信をしていきます。

(4) 使命4 能楽等や施設の魅力の発信を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	媒体ごとの広報実績数	新聞・雑誌		35回以上				50回以上	
		広報よこはま		6回以上				6回以上	
		広報よこはま西区版		6回以上				6回以上	
		地域情報誌		15回以上				20回以上	
		SNS(Twitter、Facebook)		250回以上				350回以上	
		他社WEBサイト		10回以上				20回以上	
2	能楽等や能舞台、能舞台の歴史・魅力を発信する事業数	オープンデー		1回				1回	
		定例見学会		7回				9回	
		特別見学会		3回				3回	
		バリアフリー見学会		2回				2回	
		多言語対応見学会		1回				2回	
		学校見学会		6回				6回	
		旅行企画見学会		0回				2回	
		和のものづくり、ワークショップ、見学会		4回				6回	
3	アフターコンベンションのアプローチ件数	問い合わせ、見学		5回以上				7回以上	
4 ★	「伝統文化一日体験オープンデー」参加者数			400名以上				450名以上	
5 ★	「和のワークショップと能楽堂見学」初来館率			40%以上				50%以上	
6 ★	横浜能楽堂の市民認知度			65%以上				70%以上	
7 ★	「横浜・紅葉ケ丘まいらん」での連携取組			5件以上(2年間累計)				12件以上(5年間累計)	

イ　定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	広報手法の分析	R4実績	
		R5達成指標	実施
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	実施
		R8実績	
2	アフターコンベンションメニューへの意見	R4実績	
		R5達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	旅行会社、会議運営会社、横浜コンベンションビューロー他から意見聴取し、メニューに反映
		R8実績	

ウ　使命4を達成するために重点的に取り組む事項

オープンデーや多彩な施設見学会、VR などデジタルコンテンツを活用した施設案内など、施設の魅力を伝える事業に引き続き重点的に取り組みます。能楽に限定しない興味に応えるために、和のワークショップシリーズ等を開催し、幅広い市民に来館のきっかけを提供します。

沖縄公演に際して、鶴見区と協力し沖縄芸能を紹介し市内での横浜能楽堂の認知度向上を目指します。

(5) 使命5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成指標	R8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数		0 件				0 件	
2	法定点検等の実施率		100%				100%	
3	修繕予算の執行率		90%				90%	

イ 定性指標(★は提案者が提案した指標)(実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R4実績	
		R5達成指標	ｱﾝｹｰﾄ(来場者&施設利用者)、施設利用者ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ実施
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	ｱﾝｹｰﾄ(来場者&施設利用者)、施設利用者ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ実施
		R8実績	
2	管理運営費推移の要因分析	R4実績	
		R5達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R5実績	
		R6実績	
		R7実績	
		R8達成指標	毎年度半期毎に分析実施
		R8実績	

ウ 使命5を達成するために重点的に取り組む事項

施設の老朽化、光熱水費の高騰に加え、半導体の不足による照明器具など修繕・更新に必要な消耗品類の入手が難しくなるなど、施設管理への影響が懸念される事態になっています。利用者への影響を最小限に抑えるために、日常点検の強化と関係各所との連携に重点的に取り組みます。

令和5年度　横浜能楽堂　指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目				令和5年度計画	
（1）文化事業		指定管理者提案		取組内容	目標
能楽愛好者の期待に応える特別公演シリーズや、新しい観客の創造も図る普及公演、オンラインを活用した事業等への取組 【使命1】	1	【普及公演】 普段、能楽堂に足を運ぶ機会が少ない方、能・狂言にそれほど馴染みのない方を主な対象として、古典芸能に興味を持っていただくための公演	普及公演 「横浜狂言堂」	4～12月第2日曜日　全9回	全9回
				□券売率 実売数/販売座席数	85%
				□入場者数	3,717名
	2	【特別公演】 能・狂言の作品の中で「大曲」「秘曲」と言われるような見ごたえのある曲を、現代を代表する一流の演者がその曲を演じるに最もふさわしい時をとらえて最高の舞台を実現する公演	開館28年謝恩　横浜能楽堂「中締め」特別公演 第5回能・狂言	12月2日（土）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	75%
				□入場者数	365名
	3	【企画公演】 芸術・学術性があり、創造・発信性の高い公演	企画公演 「この人　この一曲」	4月30日、6月25日、7月16日	全3回
				□券売率 実売数/販売座席数	75%
				□入場者数	1,095名
			開館28年謝恩　横浜能楽堂「中締め」特別公演 第1回雅楽とダンス	8月5日（土）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	70%
				□入場者数	340名
			開館28年謝恩　横浜能楽堂「中締め」特別公演 第2回琉球芸能	9月9日（土）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	75%
				□入場者数	365名
			開館28年謝恩　横浜能楽堂「中締め」特別公演 第3回日本舞踊	10月29日（日）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	70%
				□入場者数	340名
			開館28年謝恩　横浜能楽堂「中締め」特別公演 第4回能と声明	11月26日（日）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	75%
				□入場者数	365名
	4	【その他公演】 能楽愛好家団体「横浜能楽連盟」やふるさと西区推進委員会、西区役所との共催で開催する公演	第70回横浜能 （共催：横浜能楽連盟）	6月18日（日）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	75%
				□入場者数	365名
			第40回横浜かもんやま能 （共催：ふるさと西区推進委員会、西区役所）	10月予定	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	70%
				□入場者数	340名
	5	【ワークショップ/講座事業】 能楽師等を講師とした仕舞や狂言などを体験する大人向けのワークショップや能楽への理解を深める講座	おとな狂言ワークショップ （1回　全3日間）	8月29日（火）、9月7日（木）、9月15日（金）全3回	全1回
				参加者数	20名
			能楽師が案内する横浜能楽堂と能楽体験ワークショップ （各回全3回、2種）	6月10日（土）、10月21日（土）　各日3回	全6回
				参加者数	90名
			芸術監督による 能楽入門講座（全2回）	5月27日（土）、10月予定	全2回
				参加者数	200名
	6	【展示事業】 能楽に関する基本的な知識を学べる「常設展」と企画公演の内容と連動した「特別展」を実施	「特別展」（展示／企画公演「この人 この一曲」関連、能装束）	5月3日～7月17日	全1回
				□入場者数（本舞台入場者＋見学者）	2,500名
			「常設展」（展示／2期）	上記特別展以外	全2回
				□入場者数（本舞台入場者＋見学者）	7,000名
	7	【大学連携の実施】 近隣大学の授業での講義提供 青少年向け事業及び、若手演者の起用	神奈川大学オンライン授業	□1件以上	通年
	8	【アーカイブ事業】 古典芸能上演の記録として整備	過去の公演記録、映像の公開	公演記録の整理、公開	通年
次世代育成として子どもたちの創造性を育む公演やワークショップ、学校や教員と連携した事業を実施 【使命2】	1	子ども、教員を対象とした事業	こども狂言堂	7月30日（日）	全1回
				□券売率 実売数/販売座席数	75%
				□入場者数	365名
			幼児、児童向けお話し会	7月29日（土）　伝統文化一日体験オープンデー	実施
				□参加者数	15名
			先生のための狂言講座	7月30日（日）	全1回
				□参加者数	100名
			こども狂言ワークショップ入門編（全3日間）	7月31日（月）・8月1日（火）・2日（水）	全1回
				□参加者数	20名
			こども狂言ワークショップ卒業編（全10日間）	9月～12月	全1回
				□参加者数	5名
			横浜こども狂言会	12月24日（日）	全1回
				□参加者数	100名
			夏休みこども相談会	8月	実施
				□参加者数	20名
			横浜市芸術文化教育プラットフォーム 学校プログラム	9～3月　　5校予定	全5校程度
				実施校数	
			狂言「柿山伏」動画関連事業	新規取組	3件

令和5年度　横浜能楽堂　指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目			令和5年度計画	
(2)施設運営		指定管理者提案	取組内容	目標
能楽や古典芸能の公演、稽古等への施設の提供 【使命3】	1	施設の基本的な提供	■開館時間9：00-22:00	4-12月
			■利用受付等対応時間 9：00-20:00	4-12月
			■能・狂言の利用を優先して受付	4-12月
	2	相談対応	■能楽以外の公演利用の場合、能舞台の特性を十分に説明	4-12月
			■ロビー・楽屋に「意見箱」を設置,	4-12月
	3	施設の利用促進に対する取組およびプロモーション	■施設空き状況のホームページでの公開	4-12月
			■本舞台の1時間単位のお稽古利用の広報	4-12月
			■撮影/アフターコンベンション等の利用への積極的な対応	4-12月
			■能楽鑑賞会等のプランによる利用提案	4-12月
			■発表会の場としての第二舞台利用提案	4-12月
			■研修室、楽屋の個人向け貸出の推奨	4-12月
	4	利用を促進する各種割引料金の設定	■各種割引料金の利用推奨	4-12月
	5	休館中稽古場利用の相談　★新規取組	■代替施設の情報提供相談	通年
			■施設利用の相談	通年
	6	「バリアフリー能」でのサポート開発、バーチャル見学等の取組を実施。	■オンラインコンテンツ 「おうちで楽しむ能楽堂」	通年
			■英文公演解説の配布	公演時実施

評価項目			令和5年度計画	
(3)来館促進 プロモーション事業		指定管理者提案	取組内容	目標
能楽堂の雰囲気を活かしたワークショップやオープンデー、多彩な見学会など能楽堂の魅力を伝える事業 【使命4】	1	1　広報活動の強化により能舞台の文化的価値や横浜能楽堂の魅力を更に発信	□メールニュース配信	毎月1回
			■施設紹介動画の配信と積極的な広報	実施
			□SNSによる発信	250回以上
	2	2　能楽堂の雰囲気を活かした和のワークショップやオープンデーを開催し、能楽や能舞台への関心を高める。	■和のものづくりワークショップと能楽堂見学（2回）	実施
				30名
			■伝統文化一日体験オープンデー（1回）	全1回
				500名
	3	3　横浜市の有形文化財である能舞台を案内する多彩な見学会を開催する。実施日や参加方法を工夫し、多くの方の見学会参加を促し、地域の文化資源を紹介。	■定例見学会 4月～11月　全7回	全7回
			■休館前特別施設見学会 12月25日～27日　全3回　★新規取組	全3回
			■学校向け見学会 申込時随時子ども向けに説明内容を更新　★内容更新	実施
			■プライベート見学会の誘致　★新規取組	9件
			■観光ガイド向け説明会　★新規取組	1回
			■バリアフリー見学会 （全2回）	2回
			■多言語対応見学会	1回
			■近隣町内会対象見学会 （全1回・夏の夜）	実施
			■オンラインコンテンツ 「おうちで楽しむ能楽堂」（再掲）	提供
			■「ちょっと息抜きミニ見学」 動画配信	実施
	4	4　ユニークベニューやMICE、撮影などの受け入れを工夫し、利用につなげる。	■利用料金のパッケージプランの提案	提供
			■撮影利用への対応	提供
	5	5　ロビーや旧レストランなどを有効活用し、蔵書公開や能楽堂の紹介展示を行い、交流を促す。	■古典芸能に関する書籍や資料の公開	実施
			■能楽堂の由来や特色、沿革等を紹介する展示	実施
			■公演映像を使った能楽の紹介	実施
	6	6　近隣文化施設5館で構成する「横浜・紅葉ケ丘まいらん」で地域全体の広報活動を行う。	■紅葉ケ丘エリアの一体的な広報活動の実施	実施
			■各施設間での連携事業の実施	実施

令和5年度　横浜能楽堂　指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目				令和5年度計画	
(4)施設管理		指定管理者提案		取組内容	目標
経年劣化や不具合に適切に対応し、安心・安全な施設を維持 【使命5】 【使命6】	1	安全で快適な施設としての維持	(1) 維持管理の基本方針	■保守・点検を確実に遂行	実施
				■専門業者に継続して委託	実施
				■法令の遵守	実施
				■日常的に状態を精査	実施
			(2) 修繕	■小破修繕の適切な実施	実施
				■不具合懸念箇所のリスト化	実施
				■修繕優先順位付け	実施
				■緊急修繕に速やかに対応	実施
			(3) 防災・防犯等	■防災訓練の実施	1回
				■駐車場事故防止	実施
				■施設損害賠償保険への適切な加入	実施
			(4) その他、安心、安全な施設運営	■新型コロナウイルス感染拡大防止等感染症対策	実施
				■AEDの配置	実施
				■全員が救急救命講習を受講済	実施

評価項目			令和5年度計画	
(5)収支		指定管理者提案	取組内容	目標
助成金など指定管理料以外の収入の確保と徹底した経費削減 【使命5】	1	利用料金収入等の獲得努力［再掲］	■施設空き状況のホームページでの公開	実施
			■本舞台の1時間単位のお稽古利用の広報	実施
			■撮影/アフターコンベンション等の利用への積極的な対応	実施
			■能楽鑑賞会等のプランによる利用提案	実施
			■発表会の場としての第二舞台利用提案	実施
			■研修室楽屋の個人向け貸出/の推奨	実施
			■各種割引料金の利用推奨	実施
	2	ユニークベニュー利用・撮影利用等の誘致	■「ユニークベニュー」としての能楽堂の売り込み	実施
	3	自主事業収入の確保	■公演趣旨に応じた料金水準の設定	実施
			■プライベート施設見学会の誘致（再掲）	実施
			■補助席の販売	実施
			■友の会制度	実施
			■メール会員制度	実施
	4	助成金収入の獲得	■文化庁等助成金獲得	実施
	5	事業協賛金、寄附金の獲得	■企業からの協賛金、寄附金を獲得	実施
	6	経費削減・効率的運営に向けた取組	■入札/見積合わせによる発注価格の抑制	実施
			■印刷物発注数量の見直し	実施
			■継続した省エネルギーへの取組	実施
			■利用状況に応じた職員勤務時間の設定	実施

令和5年度　横浜能楽堂　指定管理業務計画表兼評価表（自己評価・行政評価）

評価項目			令和5年度計画	
(6) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価		指定管理者提案	取組内容	目標
	1	日報、月報の作成・管理	□業務日報の作成	実施
			□管理運営月報等をモニタリングにおいて報告	実施
	2	事業計画書・事業報告書の作成・管理	□事業計画書・事業報告書の作成	実施
			□事業計画に沿って成果が見える報告書を作成	実施
	3	業務評価の実施	□自己評価	実施
(7) その他		指定管理者提案	取組内容	目標
1 市の重要政策課題への対応	1	個人情報保護についての取組	■当財団の 定める「個人情報 保護方針」等に基づき適切に対応	実施
			□職員向けに個人情報保護に関する研修を年1回実施	1回
			■個人情報の具体的な取扱い方法について記載した「個人情報取扱いマニュアル」を整備	実施
	2	情報公開についての取組	■当財団の「保有する情報の公開に関する規定に基づき財団事務局が窓口となり適切に対応	実施
			■事業計画書・事業報告書を期日までにホームページで公開	実施
	3	人権尊重についての取組	□市/区主催の人権研修に積極的に参加	1回
			□職場内研修で人権をテーマ化	1回
	4	環境への配慮に関する取組	■持ち帰りの推奨等により施設内で発生するごみの量の削減	実施
			■チラシ/パンフレット印刷枚数の適正化	実施
			■館内照明設備修繕時のLED化の推進	実施
			■館内換気の推進と快適な環境維持とのバランスに配慮した電力利用	実施
	5	障害者差別解消	□「バリアフリー研修」開催による障害に対する意識の喚起とより実践的な対応スキルの具備	1回
	6	男女共同参画	■男性・女性の別なく職員が活躍する職場づくり	実施
	7	市内中小企業優先発注についての取組	■原則として業務委託と物品購入は横浜市有資格者掲載者或いは市内在住者/業者に発注	実施
2 その他	1	保険及び損害賠償の取扱い	■施設賠償責任、動産総合、レジャーサービス施設の各種保険に加入	実施
	2	関係法令等の順守	■業務の基準等の定めに応じて関係法令を順守	実施
	3	市及び関係機関等との連絡調整	■事故や不具合時は即日報告とし、随時共有	実施
			■「文化施設指定管理者連絡会議」他、必要な会議への出席	実施
			■掃部山公園管理者との日常的な情報共有	実施
	4	専門人材の育成	■専門人材研修（財団主催）、外部研修への参加	実施

令和5年度 横浜能楽堂会計 収支予算書及び報告書

収入の部

（税込、単位：円）

科目	施設運営 (A)	大規模改修 (B)	当初予算 (C=A+B)	補正 (D)	予算現額 (E=C+D)	決算額 (F)	差引 (E-F)	説明
指定管理料	183,070,000	15,280,000	198,350,000		198,350,000		198,350,000	
利用料金収入	11,100,000	0	11,100,000		11,100,000		11,100,000	
自主事業収入	31,704,000	0	31,704,000		31,704,000		31,704,000	
雑入	26,620,000	0	26,620,000	0	26,620,000	0	26,620,000	
自動販売機手数料	300,000	0	300,000		300,000		300,000	
その他（コピー代、炭代）	133,000	0	133,000		133,000		133,000	
その他（開催協力金・助成金）	26,187,000	0	26,187,000		26,187,000		26,187,000	
その他（企業協賛金、寄付金）	0	0	0		0		0	
収入合計	252,494,000	15,280,000	267,774,000	0	267,774,000	0	267,774,000	

支出の部

科目	施設運営 (A)	大規模改修 (B)	当初予算 (C=A+B)	補正 (D)	予算現額 (E=C+D)	決算額 (F)	差引 (E-F)	説明
人件費	83,028,000	0	83,028,000	0	83,028,000	0	83,028,000	
給与・賃金	68,541,000	0	68,541,000		68,541,000		68,541,000	
社会保険料	9,250,000	0	9,250,000		9,250,000		9,250,000	
通勤手当	2,203,000	0	2,203,000		2,203,000		2,203,000	
健康診断費	71,000	0	71,000		71,000		71,000	
勤労者福祉共済掛金	54,000	0	54,000		54,000		54,000	
退職給付引当金繰入額	2,909,000	0	2,909,000		2,909,000		2,909,000	
事務費	5,644,000	14,830,000	20,474,000	0	20,474,000	0	20,474,000	
旅費	300,000	0	300,000		300,000		300,000	
消耗品費	1,000,000	300,000	1,300,000		1,300,000		1,300,000	
広告宣伝費	400,000	0	400,000		400,000		400,000	
印刷製本費	100,000	200,000	300,000		300,000		300,000	
通信費	1,000,000	0	1,000,000		1,000,000		1,000,000	
使用料及び賃借料	1,064,000	2,580,000	3,644,000		3,644,000	0	3,644,000	
横浜市への支払分	14,000	0	14,000		14,000		14,000	
その他	1,050,000	2,580,000	3,630,000		3,630,000		3,630,000	事務所家賃720千円×3か月、倉庫代140千円×3か月
備品購入費	0	1,000,000	1,000,000		1,000,000		1,000,000	
図書購入費	0	0	0		0		0	
施設賠償責任保険	100,000	0	100,000		100,000		100,000	
職員等研修費	0	0	0		0		0	
振込手数料	300,000	0	300,000		300,000		300,000	
リース料	1,180,000	0	1,180,000		1,180,000		1,180,000	
手数料	100,000	0	100,000		100,000		100,000	
負担金、会費	0	450,000	450,000		450,000		450,000	事務所共益費150千円×3か月
雑支出	100,000	0	100,000		100,000		100,000	
その他	0	10,300,000	10,300,000		10,300,000		10,300,000	移転費（事務所改装費、引っ越し代）
事業費	66,196,000	0	66,196,000	0	66,196,000	0	66,196,000	
自主事業費	66,196,000	0	66,196,000		66,196,000		66,196,000	
管理費	72,632,000	450,000	73,082,000	0	73,082,000	0	73,082,000	
光熱水費	16,070,000	450,000	16,520,000	0	16,520,000	0	16,520,000	
電気料金	11,400,000	450,000	11,850,000		11,850,000		11,850,000	
ガス料金	3,420,000	0	3,420,000		3,420,000		3,420,000	
水道料金	1,250,000	0	1,250,000		1,250,000		1,250,000	
清掃費	0	0	0		0		0	
修繕費	3,000,000	0	3,000,000		3,000,000		3,000,000	
機械警備費	0	0	0		0		0	
設備保全費	53,562,000	0	53,562,000	0	53,562,000	0	53,562,000	
空調衛生設備保守	0	0	0	0	0	0	0	
消防設備保守	0	0	0	0	0	0	0	
電気設備保守	0	0	0	0	0	0	0	
害虫駆除清掃保守	0	0	0	0	0	0	0	
駐車場設備保全費	0	0	0	0	0	0	0	
その他保全費	53,562,000	0	53,562,000	0	53,562,000	0	53,562,000	
舞台技術費	0	0	0	0	0	0	0	
共益費	0	0	0	0	0	0	0	
公租公課	8,589,000	0	8,589,000	0	8,589,000	0	8,589,000	
事業所税	0	0	0	0	0	0	0	
消費税	8,563,000	0	8,563,000	0	8,563,000	0	8,563,000	
印紙税	10,000	0	10,000	0	10,000	0	10,000	
その他	16,000	0	16,000	0	16,000	0	16,000	
事務経費	16,405,000	0	16,405,000	0	16,405,000	0	16,405,000	
本部分	16,405,000	0	16,405,000	0	16,405,000	0	16,405,000	
当該施設分	0	0	0	0	0	0	0	
支出合計	252,494,000	15,280,000	267,774,000	0	267,774,000	0	267,774,000	
差引	0	0	0	0	0	0	0	